

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200636		
法人名	医療法人与州会		
事業所名	グループホームウエルネス	ユニット名	梅花の家
所在地	都城市上東町26街11号		
自己評価作成日	平成24年10月16日	評価結果市町村受理日	平成24年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4570200636-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人、御家族の意向を十分に取り入れ、ケアプラン作成、ケアを実施している。同法人のクリニック、病院との連携も取れており、利用者様の体調管理、状態変化にも速やかに対応が出来る。ホーム内行事には、出来る限り御家族の参加を促し、利用者様、御家族、スタッフとのより良い関係作り、信頼関係を深められるように努めており、今後も更により良い関係作りが出来るように努力していききたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの生活空間は、職員が利用者の安心と意欲を引き出す工夫やその人らしく生活を展開できるためのきっかけに満ちた造りで、家庭的で快適な暮らしの中、利用者がいかに混乱なく生活するかを常に優先させている。同法人の病院との連携も密に行い、重度者のケアや看取りについての意識を全職員が共有する機会を得て、病状が進んでもホームで暮らし続け、終末期も慣れ親しんだ生活環境と人間関係の中で迎えられる支援体制を確立している。利用者が、穏やかに生活の質を維持し暮らすために、管理者、職員は一体となって、明確な理念や目標に基づく一貫したケアの向上を図り、家族からの協力や交流も大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	梅花の家	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所独自の理念があり、理念を目標としたケアに取り組んでいる。		職員間で理念を共有し、ケアの方法を一緒になって話し合う中でチームワークが生まれ、安心かつ適切で、良質なケアの提供に心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は少ないが、運営推進会議で地域の代表者から情報を頂き、行事案内等も行っている。		近所への散歩、中学生との交流、公民館行事に作品を出品し、利用者と一緒に見学するなどのふれあいはあるが、近隣や関係する人々に対して、ホームへの理解と応援を求める丁寧な働きかけが課題である。	利用者が地域に出て、地域住民、風物や自然と触れ合いながら、豊かに暮らせるように、地域とつながる積極的な前向きな取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の代表者との交流はあるものの、地域への発信は出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族へ評価案内、内容について案内、説明、報告している。会議メンバーの方からの意見を参考にし、サービスの向上に努めている。		運営推進会議の参加者の理解や協力が得られている会議になっている。参加者の助言を基に、体験学習やボランティア的なスタッフを紹介してもらったりと、有効活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で意見を頂き、わからない事などは直接問い合わせし、指導、意見を頂いている。		市の担当者との関係性を良好にしており、相談に丁寧に対応してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本、施錠、拘束は行っていない。御家族の希望、利用者様の生命の危機、安全が保障出来ない時のみ、御家族に説明し、了解を頂いている。また、医師の意見書も頂いている。		転倒の危険性の高い利用者に、安全が保障できない時のみ車いすのベルト着用をしているが、できる限り寄り添うケアに心がけている。全職員で拘束についての知識を得る勉強会に参加し、理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な話し合いの中で、利用者様の対応の方法を検討し、虐待の無いように指導、説明をしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	梅花の家	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族との話し合い、状況に応じて、活用できるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居の際、十分に説明を行い、同意を得ている。法改正などもその都度説明、同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を活用し、その都度、改善に向けて、対応している。		職員は、運営推進会議や家族会の開催等で家族に接することが多いので、来訪時に利用者の近況報告をしたり、利用者の季節ごとの行事写真を掲示し、喜ばれている。また、指摘事項は、速やかに改善につないでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、会議を開き、意見交換を行っている。		管理者は、職員会議等で職員の意見や提案を聞き、職員から出たアイデアに関しては、職員の意見が十分に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、各職員の状況を随時、代表者へ報告している。勤務シフトは、希望休を3つ入れられるようにしている。それ以外の休みの希望も、出来る限り、希望に添えるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加し、学習する機会を設けている。また、事業所内でも2ヶ月に1回、勉強会を開いている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、情報交換を行い、勉強会にも参加している。			

自己	外部	項 目	自己評価	梅花の家	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、入居前に、本人、御家族と話す機会を設け、希望や不安な事などを聞き、出来る限り受け入れられるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでに不安、要望、希望がある際は、話し合いを数回し、出来る限り添えるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、置かれている状況を見極め、運営者、管理者、ケアマネと話し合いをし、サービス内容を決定している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	嬉しい事、悲しい事、楽しい事などは共に共有出来るように心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、御家族、職員の交流が出来るように、年2回、家族会を開催している。また、各行事にも御家族の参加を促し、参加して頂いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしていないが、御家族の要望がある時のみ、面会制限をしている。ドライブなどの行事などは、出来る限り馴染みの場所を選んでいる。		ドライブに出かける際に、利用者の自宅やなじみの場所に行ったり、家族の協力で墓参りが実現できている。職員は、継続的な支援ができるように、家族等にも働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事などの際、利用者様の席の配置に心がけている。孤立しがちな方にも配慮し、交流が出来る場面を作っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	梅花の家	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談、支援をしていきたい。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、訴えや希望を傾聴し、把握出来るように努めている。困難な方々は、カンファレンス、状態変化時に御家族と話し合いを実施し、本人本位になるケアを検討し、ケアが出来るように努めている。		日々の暮らしの中で利用者に寄り添い、利用者独自の状態パターンやサインの把握に努めている。自分ではうまく行動や意思表示ができない利用者が、どのようなタイミングで言動を始めているか、その時の表情や声などで、何かをキャッチするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、御家族から生活歴などを聞き取り、情報を全職員が把握出来るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、申し送りノートを活用し、総合的に現状把握が出来るように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族、管理者、計画作成者、居室担当のメンバーで、6ヶ月に1度、カンファレンスを行い、意見、希望、要望などを検討し、介護計画に反映している。		申し送りや定期的なミーティングの機会に、職員がケアをした結果とアイデアを寄せあい、本人や家族の話を聞きながら、介護計画を作成している。諸記録やモニタリングと介護計画が、適切に連動している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録へ日々の様子やケアの様子を記録し、モニタリング、チェックシート、モニタリング評価表などで、気づきなどがあれば記入し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の状況に応じて、職員の勤務調整をし、御家族の協力を得ながら、柔軟に対応している。			

自己	外部	項 目	自己評価	梅花の家	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりに合った地域資源を把握し、必要に応じて活用できるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の希望を優先するが、主に同法人の医療機関をかかりつけ医としている。又、医療連携体制が整っており、24時間、医師、看護師が対応できるようにしている。		本人、家族の希望で、納得のいくかかりつけ医となっており、2週間に1回、かかりつけ医の往診を受けている。主治医や他科との連絡、調整がスムーズに受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師や法人内の看護師と情報交換をし、健康管理に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の医療機関と連携を取り、情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階にて医師、看護師、管理者より御家族に病状の説明を行い、今後の対応について話し合っている。また、決定した内容によっては、同意書を頂いている。		重度化や看取りについて、かかりつけ医と十分に連携を図り、本人、家族に対して丁寧に随時の説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、ミーティング等で再確認している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災、避難訓練を実施している。		職員への消火器の使用方法についての講習や水害時の対策は実施されているが、地域住民への協力依頼や訓練は行われていない。	安全と安心の確保のため、駆けつけてくれる、利用者となじみのある地域住民を日ごろから確保し、応援のための訓練をしておく必要があるため、積極的なバックアップ体制づくりを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	梅花の家	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々の誇りやプライドを損なわないように心がけ、対応している。		人権やプライバシーの保護を理解し、利用者一人ひとりに、親しみと気配りのある対応を行っている。また、記録などは定置に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立度の高い利用者の方々には、最大限、自己決定して頂けるように支援し、自立度の低い方々には自己選択、自己決定ができるような環境作りを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先では無く、利用者様を中心とした対応を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室へ家族と行かれる方以外は、2ヶ月に1度、訪問美容をお願いし、対応している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方々の嗜好をメニューに取り入れ、季節ごとにメニューを変更し、季節の食材を提供し、楽しんで頂いている。また、利用者一人ひとりに合った食事形態を提供している。		食事はホーム内で作っており、職員は、利用者の食事介助と会話をしながら支援をしているが、同じ食事を利用者とは別の時間に食べている。	利用者の希望や思いをくみ取るコミュニケーション・関係づくりの場でもあるので、一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気会で話をしながら、同じ食事を楽しむ環境づくりを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重変化、疾病に応じて、食事量を調整している。水分も一定量は摂取して頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の方々には、出来る限り自立を促し、不十分な場合は介助している。自己にて出来ない方は、介助にて実施している。			

自己	外部	項 目	自己評価	梅花の家	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを出来る限り把握し、援助している。		利用者一人ひとりの排泄リズムに沿った支援や声かけを行い、できるだけ自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者の方々へは、運動、水分摂取の声かけを実施している。また、排便作用のある食べ物の摂取も促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者、一人ひとりが入浴を楽しめるように配慮しているが、入浴日は決まっている。夜間の入浴は、安全面上行っていない。		一人ひとりの利用者の入浴法やタイミングに合わせて、柔軟に対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣、身体状況を把握し、利用者の方々にあった状況で対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は、看護師が行っている。目的、量については、その都度、職員、御家族に説明している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自立度の高い利用者の方々へは、洗濯物干し・たたみ、台所の手伝いなどをして頂いている。自立度の低い方は、行事や散歩などで気分転換をして頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出、外泊の希望があれば、御家族へ相談し、対応している。		ホーム周りの散歩、買い物、ドライブ、美容室へ行っている。車いすや車を利用して、歩行困難な利用者が戸外に出れるように支援し、さらに家族の協力も得て、利用者の希望を実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	梅花の家	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は数名である。認知症の症状、状態によっては、トラブルになりかねない為、おこづかいという形で、御家族に了解を得て預かっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望、要望があれば対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、利用者様にとって不快、混乱、刺激になるような物は置かず、さりげない装飾がある。		ホームの共用空間は、職員が利用者の安心と意欲を引き出す工夫やその人らしく生活を展開できる造りになっている。家庭的で快適な暮らしの中、利用者がいかに混乱なく生活するかを優先させ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全個室対応の為、独りで過せる空間の確保は出来ている。また、利用者同士で過ごせるスペースもある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、入居者が使い慣れた物を持ち込んで頂くように声かけを行っている。		利用者が日常的に使っていた家具や思い出深い小物が持ち込まれたり、入り口の戸が引き戸で、かつての生活でなじんだ仕様であったりと、安心して自分の空間と感じられる条件が備わっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、洗面台、トイレなどは利用者の方々に合わせたものになっている。居室確認ができるように、本人、御家族に同意を得て、写真、名前の掲示を行っている。			